

科目ナンバー：(IA) CC UAA 9 705、(IB) CC UAA 9 706、(IIA) CC UAA 9 807、(IIB) CC UAA 9 808
 (IIIA) CC UAA 9 909、(IIIB) CC UAA 9 910

研究指導 I A、I B、II A、II B、III A、III B (事業創造研究領域) Doctor Dissertation Seminar (New Business/Entrepreneurship)	(教員名) 新藤 晴臣、近 勝彦、小沢 貴史	
事業創造研究領域 研究指導科目	演習科目	必修
	各 2 単位	2018 年度 A は前期、B は後期
I 科目の主題 <p>研究指導は博士論文作成を目的とする。指導体制は主となる教員と副となる教員から構成されるが、通常は主となる教員が指導し、必要に応じて副となる教員の助言を仰ぐ。</p> <p>研究指導 I は、1 年次の研究指導に対応する。年度当初、論文執筆計画を立てるための話し合いを行う。それは、研究課題の絞り込みやアプローチの仕方などを中心に、研究をいつまでに、どのように進めていくべきかをじっくりと話し合い、研究論文作成に関する目標、方針、日程計画について共通認識をもつ。その際、(1) 修士論文等の成果を博士論文作成に活用する場合、修士論文の成果や本質部分をいかに博士課程での作成論文に転換し、内容を深耕させていくかが検討される。一方、(2) 修士論文の成果を基礎にしない場合、課題設定と論文作成するための具体的手がかりや研究方法等を検討する。</p> <p>研究指導 II は、研究指導 I の履修を前提とする。研究指導 II の主な課題は、①論文に独自性を出すための継続的な検討やさらなる資料・統計データの加工・編集、②投稿用論文の作成と投稿、内容修正、③機会を見て学会等での報告、④後期(研究指導 II の後半)には博士論文構成の検討などである。学生は 6 月までに博士論文作成に向けた研究計画(第 2 次案)を作成する。</p> <p>研究指導 III は、研究指導 II の履修を前提とする。研究指導 III の主な課題は、①論文を 2 本以上完成させ、「査読論文 2 本以上」という条件をできる限り速やかに達成する、②自身が取り組んでいる課題の意義、研究の新規性や独自性、研究内容全体(査読済み論文 2 本以上を中核として問題提起部分と結論部分などを一体化したものの)の骨子と構成(予定目次)などを記述した「予備論文」を作成し、7 月末までに提出する、③研究課題の意義、査読論文を中核とした研究内容とその帰結、論文全体として言えたことなどを明確に記述し、論理的・一貫性、記述表現上の完成度を高めた「博士学位請求論文」(本論文)の完成と提出(11 月)、④機会を見て、学会等での報告、などである。</p>		
II 授業の到達目標 <p>研究指導 I では、①当該研究テーマの内外における先行研究の把握とそれらの内容の吸収・消化、総合評価、②独自性を出すための研究資料及びデータの収集および資料・統計データの加工・編集、③必要に応じて、研究手法の熟達、④投稿用論文の作成と、可能であれば投稿、⑤可能であれば、学会等での報告またはその準備などが求められる。具体的には、当面目標とする論文テーマと 3 年間(実質 2 年あまり)の研究計画(第 1 次案)を 6 月までに作成することが求められる。</p> <p>研究指導 II では、研究論文を作成し、適切な学会誌等に投稿することが求められる。多くの場合、投稿論文に対するレフェリーのコメントを得て少なくとも 1 回の修正を施し論文の完成度を高めていくことになる。その対応後、早期に 2 本目の論文作成を開始し、1 本目の論文作成と同様のプロセスに入る。</p> <p>研究指導 III では、予備論文を 7 月末までに提出し、引き続き、11 月までに博士学位請求論文(本論文)を完成させるよう努力しなければならない。なお、研究指導 III で示した提出時期は標準形であり半期ずらした制度もある。</p>		
III 授業内容・授業計画 各教員の科目内容は以下の通り。 新藤：アントレプレナーシップに関する研究 近：情報資本の総合政策学的研究 小沢：市場環境ダイナミクスと戦略・組織		
IV 事前・事後の学習内容 受講生は、各自の研究についてまとめた上、定期的に報告することが求められる。報告の際に得られた、フィードバックをもとに、各自の研究をさらに深めていくことが必要となる。		
V 評価方法 平常点から評価する。		
VI 受講生へのコメント 論文執筆・作成に向けたあらゆる努力を惜しまないことを希望する。		
IV 教材 講義の中で指示する。		